

加速！森林・林業再生プラン

産出する林業機械

ズームイン2012

平成21年の3月、日本プロジェクト産業協
議会（JAPIC）が発足させた森林再生事
業化研究会（主査・米田雅子慶応義塾大学主
査）は昨年、これまでの取り組みを「日本は
森林国家です 産業界からのアプローチ」と
題する書籍に集約し、成果を示したが、現在
もサミット会議の開催をはじめ、林業基盤検
討会、木材流通検討会、住宅・まちづくりモ
デル検討会などで活動を展開。林業再生への
提言などを実践している。

森林再生事業化研究会 ③貴重な木材資源を余す
は、これまで①木材（国ごとなく使う（材料から
産材）自給率50%を目指す エネルギーまで）関係企
業集結協働を目標に
す。これに向けて産業界 産官学が一体となって取
組む②国公有林／私有 産官学が一体となって取
組む③国／地方、省庁・業 産官学が一体となって取
組む④「次世代林業シ
ステム」のあり方について
検討してきた。

平成22年の3月15日、
当時の赤松広隆農相に
「次世代林業システム」

林業基盤の検討会

今年7月 東北でサミット会議



JAPICでは「次世代林業システム」を提唱、活動を繰り広げている

JAPICの研究会活動

国家プロジェクトとし
て、推進提案として、
実現に向けての対応を要
請した次世代林業システ
ムは、特に、「林業復活
・産業創出による森林再
生」を標榜し、26にわた
る提言を盛り込んだ。

進めるべき林業生産の
基盤整備として「林業の
路網基盤の整備状況」を
より進めるよう求めると
ともに、林業機械の本格
的開発と普及▽多様な条
件における作業システム
また、業界からもイワフ
ジ工業(株)、キャタピラー

この提言のいくつかの技術に検討会を設置
している「木材回収に関わ
る」は、現在、国が進める森
林・林業再生プラントにて、「林業基盤検討会」、
も反映されており、10年
後の木材自給率50%の実
現という目標に向けて各
種取り組みが進められて
いるのは周知の通りだ。
進めている。

今年7月には岩手県
内で東北の復興と森林再
生を目的とした「次世代
林業東北サミット会議」
を開催、運動の輪を広げ
ようとしている。

整備による林業の自立▽高性能林業機械
（株）ジャパン(株)、コマツ、日は、現在、国が展開中の
立建機(株)、住友建機(株)、
「森林・林業再生プラン」
の実現に向けてをメイン
のテーマに位置づけて、①
規模を実現する 林業機械化の観点から活
動支援した。
②基幹道ネットワーク
を整備③高性能林業機械の
導入と作業システムの構
築④崩れにくい路網の技
術開発⑤ICTを活用し
た木材流通システムの構
築について提案できるよ
うに活動中。

この他にも、「木材や
未利用間伐材の効率的な
流通の促進」をはじめ、
「多機能中間土場の整
備」「木材利用の推進」
「バイオマス利用の推
進」を目指したプランづ
くりを行っている。